

第 13 回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2020 年 9 月 23 日（水）15 時 00 分～17 時 00 分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞
（本店ビルにて出席）小林委員、勝治委員、長崎委員*
（Web 会議にて出席）服部委員、横山委員
＜社内委員＞林社長、倉田副社長、平岩副社長、三澤専務
（経営考査室長、総務・広報・地域共生本部部長、原子力部長、
経営戦略本部計画部部長等同席）

4. 議事要旨

「前回のアドバイザーボードでのご意見について」、「原子力部門、経営考査室、広報部門の取り組み」、「今回の安全向上会議での指示・議論」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

- リーダー教育で、ぜひ OODA（ウーダ：Observe Orient Decide Action）を取り入れていただくとよい。PDCA は組織として非常に重要だが、現場のリーダーにはこの教育も必要なのではないかと思う。
- 「know why」は大事である。それに加えて「何の目的で」という観点があると、実施する本人が、目的に気が付いて自主的に動くようになる。
- 現場の声を聞けば、ファンダメンタルズに対し追加・削除の意見が出てくると思うので、浸透活動を続けていく中で、現場の声を拾うとよい。
- パフォーマンスの向上のために、仕事の目的という根っこの部分を浸透させる・理解させるということは、とても重要である。仕事の内容や目標だけではなく、意味や目的、この仕事がどのようにつながっているのかを共有できている組織は強いし、安全の確保のためにはそういうキーワードが必要ではないか。
- 目的の理解に加え、「目的を理解した結果、どう行動する」ということを語らせると、より理解が深まるのではないか。
- PDCA だけではなく OODA も実施することはよいが、アクションプランに RIDM があるように、様々なところに様々な考え方が出てくるため、現場に対し、どういう時にどういうことをやるのかを明確にした方がよい。
- ファンダメンタルズは、上から啓蒙的に、「これをやりなさい」という形にしてしまうと、どうしても安全性が軽視されがちになる。なぜ安全性が軽視されてしまったのか、現場の声を聞くことにより、見返してもらえるとよいと思う。
- ファンダメンタルズを浸透させることは重要であり、できるだけ多くの人が理解するのが理想だと思うが、分量を増やせばよいというものではないため、今後最適化されていけばよいと思う。
- 事故には計画が急所を押さえていなかったため発生するケースと、計画で急所を押さえていたものの、実施されなかったケースの 2 つがある。前者であれば、工事の計画者

と現場監督者のコミュニケーションの問題だと思ひ、後者であれば、現場監督者が作業の中で急所に注意を払わなかったか、曖昧なまま実施したかだと思ひ。ケースで類型化が可能と思ひるので、原因がどこにあったかという観点で監査すればよいと思ひ。

- 広報活動をリモートで実施した結果、30代・40代の女性が多く参加されたことは、とても重要な示唆である。若年層に対し、コロナが終息してもリモートによる講演会等を持続ければ、原子力の理解獲得に寄与すると思ひ。
- 安全という言葉だけで住民の不安を払拭するのは難しいと思ひ。丁寧な説明で得られる安心もあると思ひが、「事故が起こった時にどう避難すればいいのかわからない」という不安を払拭するには、自治体の力も必要である。
- 若年層に対する取組に関しては、今は3歳の子がYouTubeを使いこなすという状況なので、そのようなものをうまく活用していくといい。SNSをどう活用していくか等、今後も工夫していけばよいと思ひ。
- 現在、浜岡の見学ができず、広報活動が難しい時期であるため、浜岡を実際に見学することで感じることをどう伝えるかが大事になってくる。皆さんが参加しやすいツールを増やすことができればよいと思ひ。
- CMも数多く静岡県内で流れているが、とても良い内容である。中部電力としての姿勢の見えるようなCMは、電気を使用している一般の方に対し、良いPRだと思ひ。
- アンケートの分析においては、「中間層」という分類で大体のことは明らかにはなるが、属性を聞くことによって明らかになることもあると思ひるので、機会があれば属性も含めて分析するとよいと思ひ。
- 1万年に1回、1万人に1人という説明では受け入れられないのは、確率が1/10000でも自分に当たれば自分事であり、その場合にどのような選択をすればいいのかが関心事であるからだと思ひ。

※松下委員の退任に伴い、社外委員に就任

（ 長崎 正雅（ながさき たかのり）
国立大学法人名古屋大学 工学研究科 教授 ）

以 上